北から南から

大激震をもたらした熊本地震

熊本県女性防火防災クラブ連合会
会長　冨田セツコ

1 熊本県の女性防火クラブ

家熊本県内には、全52（平成27年4月現在）の女性防火クラブが組織されています。総会員は5,000名を超え、多くの会員の皆様が、日頃から訓練や火災予防の広報活動や各種イベントに励まれています。今回は、熊本地震で私の体験したことや気付きについて皆様にお伝えしようと思います。

2 支援への御礼

一連の大地震により県内各地が甚大な被害を受け、多くの女性防火クラブ会員も被災し、今なお不安な毎日を送っています。このような状況の中、全国の防火防災クラブ会員の皆様から、沢山の励ましや支援をいただきました事は何よりの励ましとなりました。会員一同、心よりお礼と感謝を申し上げます。

3 4月14日　前震

4月14日、午後9時26分、益城町で震度7、熊本県内各地で震度6弱を観測しました。その瞬間、身体が宙に浮きあがったと同時に、電気が消えて真っ暗になり、あちこちで家具の倒れる音、窓ガラスが割れる音が聞こえました。すぐに命の危険を感じ、暗闇の中を手探りで、恐怖におののきながらも外に飛び出しました。近所の方々も着の身着のままで飛び出されており「大丈夫ですか」と声を掛け合いました。余震に続く余震で地面が容赦なく揺れる中、手を取り合い近所の避難所の小学校へ向かいました。そこは避難してきた人たち、およそ1,800人と、車で一杯になっていました。

多くの建物が被害を受けました

4 4月16日　本震

前震の夜は全身の震えが止まらず、恐怖感で一睡も出来ないまま夜が明けました。夜明けと共に一歩外に出ると町の風景は一変していました。我が家も被害は受けているものの家の中に入る事が出来たので、ある程度の片付けをしてその日は避難所に戻りました。そして16日午前

倒壊した寺社

１時 25 分、２度目の震度７の地震に見舞われました。夜が明けるのを待ち、家に向かう道中は、倒れた電柱が塀に突き刺さり、道路のアスファルトは裂けて、倒壊した沿道のブロック塀が道に散乱し、農家の納屋が倒れて道を塞いでいました。半壊状態の家の前を、崩れてこないかと恐る恐る足早に通り抜けました。やっと我が家の前にたどり着いたものの、１階部分は見事に２階に押し潰されており、楽しかった我が家を思い、その場に立ち竦み、涙があふれて止まりませんでした。これまで生きてきた証がすべて瓦礫に埋まってしまったのでした。

倒壊した家屋

それからの長い避難所生活、着の身着のままで、２時間並んで僅か２個のおにぎりや水を貰い、仮設トイレに入り、布団もない生活に毎日が涙々でした。現在、被災した家は取り壊され更地になり、近所での新しい生活を送り始めています。

5 熊本地震で見えてきたもの

熊本地震から３ヶ月、少し落ち着いてきたので、いろいろ考えます。あの本震の時、よくぞ家にいなかったなと…考えるだけでも恐ろしくなります。余震が来る度に地震の恐ろしさをまだまだ思い出しますが、この度の２度の激震を経験して思うことは、防災訓練を今一歩前進させたいと言う事です。私たち会員は、避難訓練や避難所運営を重ねてきましたが、本番ではとても訓練通りにはいきませんでした。大地震直後の混乱期に落ち着いた行動ができるよう、避難訓練は、自宅や施設からの脱出だけでなく避難所まで計画を作るですとか、さらに実践的で一歩踏み込んだ訓練を考えていきたいと思います。訓練は継続して、体験して、日々活動をすることが大事であると、改めて日頃の女性防火防災クラブ活動の大切さを感じたところです。

避難所として活躍したテント村

6 熊本県内女性防火クラブの活動（判明分）

・山鹿市では、緊急消防援助隊へカレー 300 人分以上の炊き出しを実施。
・宇土市の花園校区では、公民館において４月後半から約３週間にわたって、多いときで、600 食、概ね 300 ～ 400 食のカレー、ご飯、味噌汁などの炊き出しを実施。網津校区では、多目的体育館の避難者と近隣居住者に対し４月 17 日から５月 14 日まで炊き出しを実施。
・美里町では、４月 15 日 100 人分の食事や、おにぎり数百人分の炊き出しを実施。
・宇城市では、５月 12 ～ 14 日、一日 400 食のレトルト食品の温め等を実施。